

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795800321		
法人名	株式会社 プラティア		
事業所名	グループホームプラティア平野		
サービス種別	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府大阪市平野区喜連東5丁目15-26		
自己評価作成日	2017/8/30	評価結果市町村受理日	平成29年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	平成29年9月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の運営理念である、『利用者本位』をベースに全社で取り組んでいる『寄り添い介護』を行なうためにご利用者様一人ひとりの思いや願い・夢を実現できるように職員が一丸となり思い等をしっかりと聞き取り・引き出せるような関わりを持ってケアをおこなっている。また職員が笑顔でケアにあたることで穏やかに明るい雰囲気与生活できるような空間作りをおこなっている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

町会長の協力を得て町会との交流があり、近隣への散歩、買い物・喫茶・外食等の外出、保育園との交流、ボランティアの来訪等、利用者が地域と繋がりがながら暮らせるように取り組んでいる。「喜連るん交流会」に参加し、地域貢献にも努めている。利用者個々のADL・生活歴・趣味・意向を把握に努め、日常生活の中でそれらに応じた役割づくりや活動ができるように支援している。また、「寄り添い介護」を活用し、希望の場所・思い出の場所への外出、趣味の継続等が実現できるように、家族や職員間で協力し取り組んでいる。計画的な研修・人事考課・定期的な会議の開催・クリップライン研修の導入など、職員の資質向上と連携に努め、サービスの質向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 者 第	三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基にした動画を用いて分かりやすく職員に共有実践している	法人共通の運営理念を、玄関・各ユニットの事務所に掲示し、月1回開催する全体会議で唱和し、職員の共有を図っている。運営理念に基づいた基本方針に、地域密着型サービスとしての意義を明示している。全体会議やフロア会議で検討する際に、運営理念・基本方針に立ち戻って検討し、「寄り添い介護」や自立支援を通して、運営理念・基本方針の実践に努めている。理念を映像化して配信するクリップラインを活用して、職員が具体的に理解し実践に繋げる取り組みも行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園との交流や清掃活動の参加をおこなっている	運営推進会議に町会長の参加があり、町会の清掃活動や年末の夜警に参加する等、町会との交流を行っている。近隣を散歩したり、買い物・理美容・喫茶・外食等で地域の店舗を利用し、利用者が地域と繋がりながら暮らせるように支援している。近隣の保育園の行事や平野区区民祭りにも出かけている。踊り・歌・手品など、地域のボランティアの来訪も継続している。「喜連るん交流会」に参加し、キャラバンメイト活動や、地域からの見学を受け入れて高齢者福祉への理解を深める取り組みに参加する等、区内の関係機関と協働して地域貢献にも努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトの活動の一環として地域の方に施設内の見学・認知症の方との交流をおこなっている		

グループホームプラティア平野

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>状況報告や直面している問題に対して助言を求め意見を基に向上・改善を会議カンファで検討している</p>	<p>利用者・家族・町会長・地域包括支援センター職員・知見者（他事業所管理者）が参加して、大阪市の規定に基づいて、定期的に開催している。会議では、利用者の状況・事業所の活動や取り組み・事故・行事予定等を報告し、参加者からの書面での質問やコメントに対するの回答も行っている。また、設定したテーマについて参加者と意見・情報交換し、サービスや運営に反映している。</p>	<p>運営推進会議の議事録は、個人情報保護等に配慮しながら、設置等により公開することが望まれる。</p>
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>法令の解釈や利用可能なサービスについて電話等で助言をいただいている</p>	<p>地域包括支援センター職員の運営推進会議への参加があり、利用者の状況や事業所の取り組みを伝えている。「平野区グループホーム連絡会」「喜連るん交流会」を通して、市・区との連携がある。福祉的支援を要する利用者には区のケースワーカーと協働して支援にあたっている。法令解釈やサービス等について不明な点があれば、市の担当者に質問し助言や指導を受けている。</p>	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束について勉強会や動画にて正しく知り理解している。防犯上から玄関は施錠しているがフロア間の出入り口の施錠は行っていない。</p>	<p>契約書に「身体不拘束」を明示し、契約時に家族に法人の方針を説明し、身体拘束を行わないケアを実践している。28年は「身体拘束について」の研修を実施し、29年も実施予定である。研修は全体会議の中で全員参加を基本とし、欠席者にも資料配布して周知を図っている。「プラティアの禁止事項」に行動制限をしない、敬語の使用を明示し、事務所にも掲示し職員への意識付けを行っている。各フロアは広く開放的であり、また、階段・エレベーターの使用は自由で1階・2階を行き来でき、閉塞感を感じないように配慮している。玄関は施錠しているが、利用者に外出の意向があれば、職員が対応している。家族とも話し合いの上、一人で外出する利用者もいる。</p>	

グループホームプラティア平野

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やカンファにて虐待について意識を持ち動画を用いて具体例の再確認する機会を確保している。		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会にて権利擁護について学ぶ機会を確保している。また司法書士やあんしんサポートから制度について教授いただいている		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明時間を十分確保しおこなっている。説明時だけでなく後日疑問に感じたり不安を感じた部分についてはいつでも相談できる旨をしっかりとつたえている。		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族・ご利用者様も参加頂き意見要望をお聞きしている。またご利用者様から外出等の要望やご家族様来訪時は必ず状況報告を行いその結果をカンファ等で検討し実施している。	毎月写真付きで郵送する「便り」やブログで当月の行事や生活の様子を伝え、家族の面会時に近況を伝える等、家族が意見・要望を表しやすいように取り組んでいる。把握した意見・要望は、申し送りノートで共有し、内容に応じて、フロア会議で検討したり、介護計画に採り入れ、寄り添い介護を活用する等、個別の支援に反映している。クリスマス会や敬老会に家族を招待し、話しやすい関係づくりに努めている。また、運営推進会議に利用者・家族の参加があり、外部者に意見を表す機会も設けている。非常災害時の備蓄の整備など、運営やサービスにも反映している。玄関に意見箱も設置している。	

グループホームプラティア平野

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に職員とコミュニケーションをとり意見を伝えやすい環境をつくっている。また年に数回個人面談の機会を確保している。	ホーム長は日ごろから話やすい関係づくりに努め、職員の意見の把握に努めている。月に1回、全体会議・フロア会議を実施し、ホーム長も参加し職員の意見を把握している。人事考課制度を導入し、年3回エリアマネジャー・ホーム長が個別面談を行い、職員の意見を個別に聴く機会も設けている。ホーム長・エリアマネジャーが把握した意見は、内容に応じて、管理者会議で法人代表に伝える仕組みがある。書式の変更・業務の効率化・物品購入等、職員の意見を業務改善やサービスに反映している。職員の異動については、利用者との馴染みの関係に配慮して最小限にとどめている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として人事考課・職能要件を基に客観的な評価と現場での状況を総合的に判断している。また面談時などで目標や意見などを参考に職場環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社初年度の新任研修・3年目の現任研修を中心に社外研修に対しても費用負担を軽減できる制度を周知している。また研修情報をまとめ掲示している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡会に参加し情報の共有交換をおこなっている。またキャラバンメイトの活動に参加協力をおこなっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談を行ないご本人様の希望や要望などの情報を集め生活環境を確認しスムーズに入居できる支援をおこなっている。入居直後は職員との関係性の構築の為積極的に関わりをもち得た情報を職員間で共有を行い不安の軽減に努めている。		

グループホームプラティア平野

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の今までの介護に対しての不安や要望に対し連絡調整を受け付ける機会を確保している。入居後に多くのご家族様が感じるであろう部分についてはこちらから事前に説明を行なうと共に入居後に関してご本人様のご様子の報告を行なうようにつ努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前面談や入居前には分かず入居後の関わりの中からわかった必要な医療や公的制度（後見人制度やあんしんサポートなど）の利用をご本人様やご家族様含めて検討・支援を行なっている		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様のADLや得意な事好きな事に重点を置き職員と共にできる作業を共に行い役割ややりがいを感じて生活できるような関係性をきづけるよう努めている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の今までの介護を尊重しながら入居後もご本様と良好な関係性を持つよう訪問時には職員が普段のご様子をお伝えしている。また毎月写真つきでご本人様のご様子をお手紙で報告させていただいている。		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力を得たりまたは職員が共に馴染みの場所に外出できるよう支援をおこなっている。	入居時に把握した馴染みの人や場所についての情報は「利用者調査票」の特記事項欄に記録し、入居後に把握した情報は申し送りノートや「介護日誌」に記録し、共有を図っている。家族・親戚・友人・教会関係者等馴染みの人の来訪時は、椅子やお茶を出し、居室やフロアでゆっくり過ごせるように声かけ・配慮している。馴染みの場所への外出は、「寄り添い介護」を活用して支援している。はがきの購入や投函に同行したり、携帯電話の使用等、手紙や電話での関係継続も個別に支援している。	

グループホームプラティア平野

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	年齢性別や性格等把握し良好な関係性ができるよう職員がサポートをおこなう。行事やイベント時数人の入居者様と職員で協力し準備実行をおこなっている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も随時ご本人様やご家族様のご相談および支援を受け付けております。また次サービスをスムーズに利用できるようにご本人様及びご家族様の許可を得て情報の提供も行なっております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での発言・行動・表情等から希望や思いを感じ取りノートや日誌に書きとめ職員で共有しカンファ等で検討を行っている。また発信が困難なご利用者様については過去の生活暦などから検討をおこなっている。	入居時に把握した利用者・家族の思いや意向は「利用者調査票」の「希望欄」に記録し、入居後に把握した内容は申し送りノートや「介護日誌」に記録し、共有を図っている。把握が困難な利用者については、家族から意見や情報を聴取したり、表情や反応から汲み取り、本人の立場に立って検討している。発語が困難な利用者や難聴の利用者には、個別のコミュニケーション方法を工夫して職員間で共有し把握に努めている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面談時にご本人の生活されている環境や生活歴を直接把握しご本様やご家族様やケアマネから情報を頂いております。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や申し送り、共有ノートを活用して職員間で情報の共有を行なっている。また状態の変化に気づけるよう積極的な関わりを持つように努めている。		

グループホームプラティア平野

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)		<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>定期的または状態の変化があった場合にカンファレンスを開催し課題解決に向けてご本人・職員・医療関係者・ご家族などから意見やアイデアを出しそれを基にプランに反映させている。</p>	<p>「利用者調査票」で情報を収集し、「アセスメントシート」を基に課題抽出し、介護計画書を作成している。サービスの実施状況は、各種チェック表や「介護記録」に記録し、毎月のフロア会議でケアカンファレンスを行い、各利用者について話し合っている。定期的には、6カ月毎と介護認定時に計画の見直しを行い、見直し時のフロア会議で検討し、次の介護計画に反映している。</p>	<p>介護計画に基づいたサービスの実施状況が明確になり、モニタリングの根拠となるような記録と、モニタリングの書式の工夫が望まれる。また、カンファレンスの議事録に、計画見直し時の利用者・家族の意向、主治医・看護師など関係者の意見を一元的に記録に残すことが望まれる。</p>
27			<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の言動や気づきは個別の記録に記入し健康状態についてもバイタル表や排泄表などを用いて出勤時は必ず確認している。また特記事項に関しては別途共有ノートや日報に記入しより分かりやすくしている。</p>	/	
28			<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>訪問理美容・訪問歯科・訪問マッサージなど訪問していただけるサービスや町内にある美容室や喫茶店・飲食店の協力を得て施設外の店舗の利用も行なっている。</p>	/	
29			<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の保育園の園児とイベントで交流をしたり、町内の美容院や喫茶店・飲食店を認知症のご理解を頂き活用させていただいている。</p>	/	

グループホームプラティア平野

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)		<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>契約時にかかりつけ医の確認を行いご本人様・ご家族様が希望されるかかりつけ医を選択いただいている。またかかりつけ医の専門外の医療に関してもかかりつけ医との連携を図りながら受診の支援を行なっている。</p>	<p>契約時に確認し、利用者・家族の希望に沿った受診支援を行っている。協力医療機関の内科・精神科・歯科の往診と訪問看護を受けられる体制がある。協力医療機関の医師・看護師とは、24時間の連携体制がある。通院での受診は家族の同行を基本としているが、状況に応じて職員が同行している。「訪問看護記録」「健康管理記録」「往診記録」に結果や連携が記録され、通院結果は「介護日誌」に記録し、職員間で共有し、家族にも報告している。</p>	
31			<p>○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関の看護師と訪問時はもちろん電話での助言や指導を頂戴している。また健康管理日誌を活用し職員間でも共有を行っている。必要時は医療機関への受診の支援をおこなう。</p>		
32			<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には薬情やケアプラン及びアセスメント情報や必要に応じて個別日誌を病院関係者に提示している。また定期的な面会を行い状態の把握早期退院と退院後の受け入れ態勢も含めて病院関係者・ご家族様と相談・検討を行っている。</p>		
33	(12)		<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時にご本人様・ご家族様に対しご説明をさせていただいている。また入居時にはなかなかイメージがわからない為そのような状態に近づいた際に再度ご説明させていただき事もお伝えしている。介護職員で対応可能なケアと禁止されている医療行為についての具体的な説明も含め医療機関などと連携しながら終末期を迎える体制で支援をおこなう</p>	<p>契約時に「医療対応指針（重度化対応・終末期ケア対応指針）」「看取りに関する指針」に沿って、事業所の方針について説明を行い、同意を得ている。終末期を迎えた段階で、主治医が家族・後見人等に説明を行い、利用者・家族の意向に沿った支援に取り組んでいる。終末期には、介護計画を看取りの計画に見直し、支援内容は介護日誌に記録している。研修計画に盛り込んで「ターミナルケア」研修を実施している。</p>	

グループホームプラティア平野

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修において緊急時（急変・事故）対応方法の勉強会を開催している。また連携医療機関の看護師や医師から指導いただいている。		
35	(13) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防避難訓練や社内勉強会にて非常災害時の対応をおこなっている。また非常災害時の対応マニュアルを各フロアに配置している。運営推進会議にて施設ないの配置避難経路の説明をおこない災害時の協力を求めるとともに地域の避難所としての活用の提案を行なっている。	年に2回、避難・消火・通報の総合訓練を夜間想定で利用者も参加し実施している。1回は一般財団法人大阪消防振興協会の立ち合いで実施し、地震対応も含めて指導を受けている。訓練に参加できなかった職員には、訓練の実施記録を回覧して周知している。運営推進会議で、火災・地震・水害等非常災害時の対応について説明し、避難経路についても案内している。災害時の協力を依頼すると共に、地域からの避難も提案し、地域と相互協力できる関係構築に取り組んでいる。水・食料・備品について、備蓄も整備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の今までの人生を尊重するとともに現在の状態・人格を受け止め真心をこめて支援にあたっている。	権利擁護や接遇研修で、利用者の尊厳を損ねない言葉かけや対応について学ぶ機会を設けている。運営理念や基本方針、禁止事項にも明示し、職員の共有と意識向上に努めている。申し送りや記録にインシヤルを使用し個人名が出ないように配慮し、写真の掲示・ブログについては契約時に詳細に同意を得ている。個人記録は事務所の施錠できる書庫に保管し、職員の守秘義務の誓約書をとる等個人情報の適切な管理に取り組んでいる。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の何気ない会話や表情・行動などから希望や思いをくみとったり、表現できるような役割や行事など職員が関わり表現できる環境・雰囲気作りを行なっている。		

グループホームプラティア平野

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の全てがご利用者様のペースに合わせることができないことがある為、会議やカンファなどで業務改善やかかわり方について再検討を行いご利用者様のペース・日々の生活について希望にそえるようにつとめている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容や町内の美容室を利用したり、一緒に外出して衣類や化粧品を好みの物を選んでいただけるよう支援している。		
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力や特技に応じて食事の準備や調理補助を職員と一緒にこなしたり、下膳などもできる限り行なっていたりしている。また食事はご利用者様、職員共に同じものを一緒にコミュニケーションを取りながら楽しんでいる。	業者から献立と食材が届き、各フロアで手作りした食事を提供している。献立は季節や行事に配慮され、事業所からの要望も反映している。日曜日の夕食は、利用者の希望を採り入れた献立で、買い物から行っている。調理・盛り付け・後片付け等、利用者の好みや得意に応じて参加できるように支援している。職員もテーブルを囲んで同じ食事を摂り、家庭的な雰囲気の中で食事が楽しめるようにしている。家庭菜園で収穫した野菜を食材にしたり、梅シロップづくり・おやつ作りなど、楽しめる工夫をしている。クリスマス会や敬老会には家族を招待し、一緒に食事を楽しむ機会を設けている。行事としてユニット単位で外出したり、個別には「寄り添い介護」を活用して喫茶や外出に出かけている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を毎日記録し増減などの変化がわかるようにしている。その結果から食事形態や水分形態を工夫するなどご利用者様一人ひとりにとって適した物を提供できるよう支援している。		

グループホームプラティア平野

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に応じて介助の割合を変更し残存能力を活用しつつ職員は口腔ケアに当たっている。		
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用しながら排泄パターンや間隔を把握し各個人にあったリズムで誘導・介助をおこなっている。またカンファレンスで排泄について検討し自然排泄できる介助について話し合いを行なっている。	排泄表で排泄状況や排泄パターンを把握し、必要な利用者には声かけ・誘導を行い、日中は基本的にはトイレで排泄できるように支援している。夜間は安眠を重視し、個々に合わせた介助方法で支援している。フロア会議のカンファレンス等で、現状に即した介助方法や排泄用品を検討している。ドアの開閉や、声かけや処理時の周囲への配慮等、誘導時や介助時の羞恥心に配慮した支援に努めている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量・運動量・食事内容など総合的に検討をおこないできる限り薬剤にたよらない自然な排便が出来るよう検討をおこない、また排泄に関する勉強会もおこなっている。		
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ADLの高い特定のご利用者様に関しては好きなタイミングで入浴していただけているが、多くのご利用者様に関してはお声掛けはさせていただいているが時間帯を施設側で決めてしまっている。	一人での入浴から2人介助まで、利用者個々のADLに応じて対応し、浴槽での入浴を支援している。週2回以上、午後の入浴を基本としているが、回数・時間帯は希望に応じて対応している。異性介助を嫌がる利用者には同性介助で対応し、入浴を嫌がる利用者には声かけやタイミングを工夫して円滑に入浴できるように支援している。ゆず湯やしょうぶ湯を行い、季節が楽しめる取り組みもある。	

グループホームプラティア平野

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間・昼間とわず消灯時間等の取り決めはなくご利用者様の状態に合わせてお声掛けを行ったり好きな時間にお休みになっている。またベッド環境など睡眠空間の温度や寝具なども考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局との連携により薬の効果・副作用について情報をいただいております、詳細について知りたい場合も質問するなどの対応をおこなっている。また薬の変更や追加時には特に状態の変化を注視するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	特技や趣味を大事にし役割や楽しみが持てるように支援している。またお酒などの嗜好品についても著しく健康に害が無い限り楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	寄り添い介護というもので職員がサポートしながらご利用者様と外出支援をおこなっている。町内の居酒屋や散髪屋などにもご協力いただき電話による連絡などをしていただいています。	近隣への散歩・買い物には日常的に出かけ、初詣・花見等季節に応じた外出、ユニット単位の外出・父の日の銭湯入浴等行事としての外出の機会も設けている。植物園など、年に1回遠足にも出かけている。喫茶・外出・居酒屋・理美容院・映画・プール・墓参り・実家等、「寄り添い介護」を活用し、利用者個々の希望をかなえる外出支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	お金を持っていることで安心感を得られる方に対してご家族様に確認し所持・使用していただいております。その他の方に関しては預かり金として管理し必要時に使用できるようにしている。		

グループホームプラティア平野

自己 者 第	三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持し自由にお電話されている方もいらっしゃいます。またお手紙をかき職員と一緒に投函しに行くなどの支援をおこなっている。	/	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は清潔感があるように清掃をおこない花壇には季節感のある草花を植えている。また掲示物に関しても季節がわかる飾りやポスターを掲示している。	採光よく明るい共用空間は、ゆったりと広く清潔感がある。テーブル席・ソファ・マッサージチェア等が設置され、思い思いの場所で過ごせる環境がある。利用者と共に制作した季節感のある作品や、行事や外出の写真を掲示し、また、隣接したキッチンから調理の音や匂いがあり、季節感や生活感が感じられる。家庭菜園で水やりや収穫を楽しんだり、気候がいい時期には、テーブルでお茶や食事を楽しむなど、玄関前のスペースも活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダやエントランスに椅子やベンチを配置し一人で過ごしたり少人数でお話しができる空間を確保している。	/	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物や馴染みの物を持ち込んで頂きできる限りいままで生活してきた配置や雰囲気にならざるよう配慮している。	居室にはクロゼット・洗面台が設置されている。それ以外は、ベッド・タンス・机・テレビ等馴染みの家具や、仏壇・人形・写真等が持ち込まれ、落ち着いて居心地よく暮らせる居室づくりを支援している。キーボードやパソコン等趣味が継続できるものも持ち込まれている。持ち込みが少ない利用者には、職員が写真や色紙を飾り、居心地よく過ごせるように配慮している。温度管理や掃除にも留意し、衣替えや必要物品の整備等は、居室担当者が中心に家族と連携をとって行っている。	

グループホームプラティア平野

自己 者	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所など全てのご入居様が分かるように図形や文字・言葉などで工夫をおこなっている。また自由に移動ができるよに身体能力にあわせて福祉用具の利用も検討の上使用している。		